

社会・環境報告 (CSR)

資源循環

富士電機では、製品の3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進し、創エネルギー・省エネルギーに貢献する環境配慮型製品を拡大するとともに、事業所の「ゼロエミッション」で循環型社会形成に貢献します。

廃棄物の削減

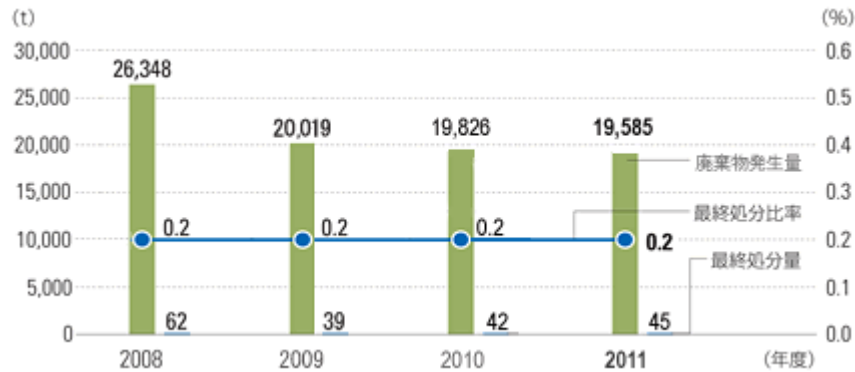
富士電機は、廃棄物発生量に対する最終埋立処分量比率を1%以下とする「ごみゼロ」を目標に、廃棄物の削減と資源循環を推進してきました。2004年度に「ごみゼロ」を達成して以降、継続して目標を上回る成果を上げています。さらに、2011年度からは達成目標を0.5%に引き上げ、廃棄物発生抑制を強化しています。

2011年度の国内発生量は、前年度とほぼ横ばいの19,585トン、最終処分量は45トンでした。2011年度の発生量に占める最終処分量比率は0.2%となり、目標を達成しました。

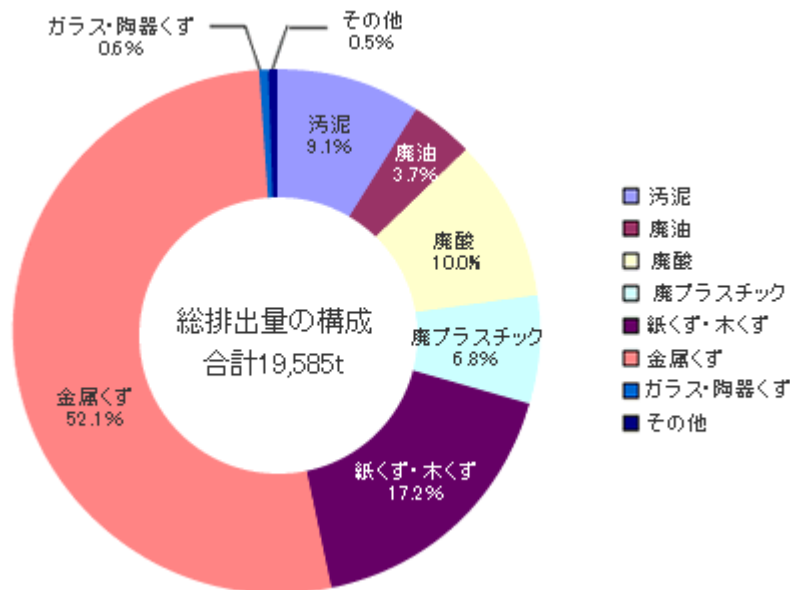
また、海外工場でも、ゼロエミッションの活動を開始しました。海外、特に東南アジアでは日本と異なり、廃棄物処理、再資源化処理のインフラの整備が遅れていることも考慮し、2012年度の目標を廃棄物発生量に対する最終埋立処分量8%以下としています。

今後も廃棄物削減に取り組み、資源循環型社会の形成に貢献していきます。

廃棄物発生量・最終処分量の推移(国内)



廃棄物発生量の構成比(国内)



水資源の有効利用

富士電機は、水資源が資源循環型社会の構築に欠かせない要素の一つであると考え、排水に含まれる重金属や化学物質などを規程する排水基準の管理と、排水量の削減に取り組んできました。

2011年度に策定した「環境経営3カ年ローリングプラン」では、国内の製造拠点で2010年度水資源の総使用量(購入水+地下水)を基準に、総量と原単位をそれぞれ年1%ずつ改善する目標とし、2020年度には10%改善を目指しています。

2011年度の水使用量は5,337千トン、排水量は4,316千トンとなりました。各事業所での水使用量の削減の取り組みに加え、事業の再編に伴い2拠点の活動を一時的に休止したことにより、昨年度と比較して、使用量、排水量とも約20%の削減となりました。

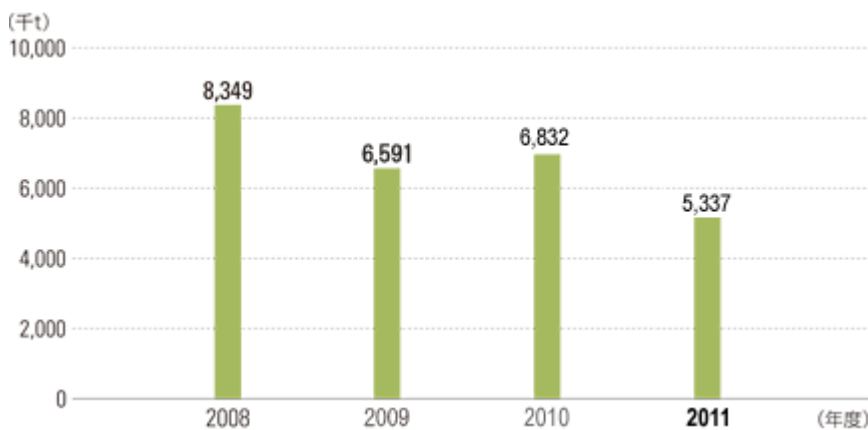
今後も取り組みを継続するとともに、特に中国の富士電機(深セン)社などの水資源枯渇リスク地域での有効利用をさらに推進します。

半導体製造工程の排水を再利用

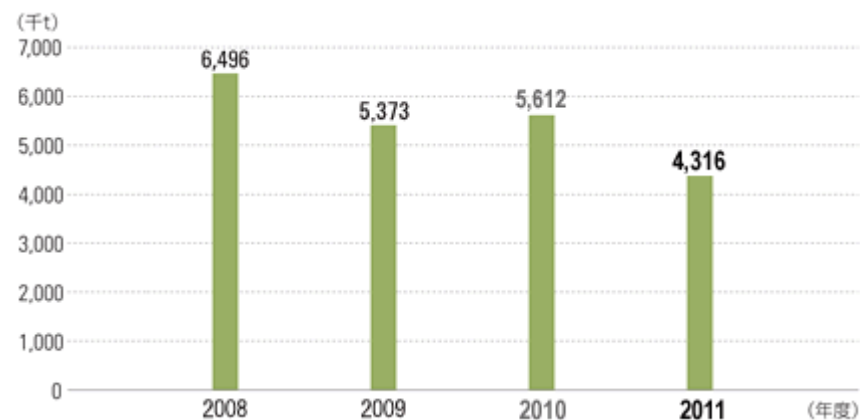
製品の洗浄など、半導体の製造工程では大量の純水を使用します。そのため、同製品を生産する松本工場では、純水排水の再利用(リユース)に積極的に取り組んでいます。

これまで、純度の低下していない排水については純水再生装置による処理を行い、製造工程で再利用してきましたが、2011年度に実用化の目処を立てたのが、低純度純水の工場内施設での再利用です。これは低純度純水の排水のうち、純度の低下していないものを精密ろ過膜などの設備を通して処理しクーリングタワーの冷却水や事務所の生活用水などに用いる取り組みです。この取り組みにより、1日あたり約1,000m³の生活用水を削減しました。

水使用量の推移(国内)



排水量の推移(国内)



Copyright©2013 Fuji Electric Co., Ltd. All Rights Reserved.